

【日本の近代戯曲研修セミナー】とは

日本演出者協会が、新進芸術家育成事業のひとつとして文化庁より委託を受け、主に東京・名古屋・大阪において2009年から開催。日常ではあまり触れることのない近代戯曲の名作を、様々な形で研修やリーディング形式での上演を行い、演出に関わる者の勉強の機会として、また、広く紹介する場として実施。名古屋では7回目の開催となる今回は、《家族》というテーマで三作品を選出、リーディング公演と特別企画を実施する。

三島由紀夫：作「火宅」

「そうだよ、何も起らない家なんだよ。」初夏、日曜の午後一時頃。手入れのされていない畑、無趣味さ広がる庭。舞台は、無気力さ倦怠感漂う大里家。この家に住む千代子は、翻訳業をしながらも収入が少なく生活力の乏しい夫、大里貞次郎に対し呆れ失望する日々。この日も居間で夫と話すすべて倦怠の中に埋没していくかのよう。そんな中おめかしをした娘、千賀子が居間へ慌ただしく下りてくる。この日娘は下宿人守屋と出掛けるのだ。いつも以上に楽しそうに両親の元を去る姿から、感受性の鋭い千代子はただならぬ恐怖心を抱く。しかし夫は相変わらず楽天的で千代子の話に全く取り合わない。その姿に絶望した千代子はある晩見た出来事を話し始め、やがて自身と守屋の関係を告白する…。(「火宅」とは仏教用語で『この世の、汚濁と苦悩に悩まされて安住できないことを、燃えさかる家にたとえた語』)



演出＝森 秋音 (もりあかね)

俳優、演出。ヨテラシイチ主宰。専門学校にて俳優として演劇を学び、卒業後劇団活動等を経て、ユニット「ヨテラシイチ」結成。男女の会話劇を主に、コンテンポラリー要素も入れつつ、繊細な作品をつくる。文学、古典作品も扱う。ダンス、生演奏と詩のコラボなど幅広く活動。代表作 宮沢賢治『シグナルとシグナレス』『よだかの星』、中原中也『汚れちまった悲しみに』、ジョン・パトリック・シャンリイ『ダニーと紺碧の海』。

● 出演者＝室 奈美江 (NEO企画) 他

岸田國士：作「女人湯仰」

ある晩、老人が、街で春をひさぐ少女と出会う。誘われてホテルに入った老人はしかし、少女には触れようとせず、自分のこれまでの人生を静かに語り始める。今は亡き母親や妻、現在一緒に暮らす娘への充たされぬ思いを。そして、傍らで無心に眠る少女を眺めながら老人は言う。「おふくろからも、女房からも、娘からさえも得られない、何かしらやさしいもの、すべてが許されるようなものが、不思議におまえのなかにはある。おれにはおまえが、神々しいほど美しく見えるのだ」と。



演出＝齋藤敏明 (さいとうとしあき)

1960年、福井県生まれ。名古屋大学工学部建築学科中退。大学入学後、学内劇団にて演劇を始める。その後、自ら劇団を結成、主に劇作、演出を手がける。90年、イベント、演劇などの制作会社を設立。94年解消後、フリーの演出家として、名古屋を中心に活躍。自らのプロデュース公演、他劇団の公演、市民参加劇、ミュージカル、オペラ、イベントなど、幅広い分野にわたり、構成演出を数多く手掛ける。分野の異なるアーティスト達によるステージや雅楽師・東儀秀樹のコンサートツアーなどの構成演出も担当。日本演出者協会東海ブロック連絡係。

● 出演者＝伊沢 勉 (有限会社ともだち)、村松優子、秋葉由麻

太宰治：作「冬の花火」

1946年に発表された太宰の戯曲。東京から津軽の生家へ疎開してきた主人公・数枝。夫である島田は未だ戦地から帰らないが、数枝にはすでに別の男がいるらしい。そんな数枝に父・伝兵衛は、娘の睦子を置いて出ていけと憤る。村の男・清蔵は、自分と一緒にいるべきだと数枝に執拗に迫る。数枝は津軽にとどまり百姓をして桃源郷を作りたいを夢想するが、敬愛していた継母・あさが清蔵と関係のあったことを知る。そこに急を告げる電報が届く。



演出＝かしましげみつ

1988年2月生まれ。愛知県刈谷市出身、名古屋市在住。2009年に「孤独部」を旗揚げ。すべての作品の作・演出をつとめる。ライブハウスを中心に活動し、2012年より劇場での公演も行っている。2014年7月「AAF リージョナル・シアター 2014～大阪と愛知 vol.1～文豪コネクション」演出家に選抜。今どきの若者の、ゆるやかなからだとことばを用いて、現代人の実感をやわらかに(時々鋭く)描きだす。

● 出演者＝吉村桜子 他

STAFF
照明 花植厚美
音響 後藤佳子
舞台監督 岡田一彦

実行委員会
岡田一彦
小熊ヒデジ
かしましげみつ
金子康雄
神谷尚吾
川村ミチル
菊本健郎
木村繁
久保田明
齋藤敏明
はせひろいち
丸知亜矢
森秋音

名古屋市北文化小劇場

名古屋市北区志賀町4-60-31
TEL 052-910-3366 FAX 052-910-3367

※公共交通機関をご利用ください。

【交通アクセス】

・地下鉄名城線「黒川」下車4番出口
より北へ徒歩12分

・「黒川(北)」もしくは「黒川」より、
市バス(幹栄1号系統、黒川11号系統、
黒川12号系統)「北図書館」下車東へ徒歩3分

